

在宅取組型（中学校）

学校名等	養老町立高田中学校
実施日時	年間4回（6月・7月・8月・9月・12月）
会場	各家庭
参加人数	365名（全保護者数）
学習課題（分野）	家族の絆チャレンジ2021!! （思いやり・命の大切さ・家族の大切さ・社会のルール）
運営者の願い	コロナ禍で活動が制限される中でも、計画的に「在宅取組型」の家庭教育学級を推進することで、親子のふれあいや家族の絆を深めたいと考えた。また、親子の会話を通して、倫理観や規範意識が高められるように取組を工夫した。

学習の内容

今年度も、「家族の絆チャレンジ2021!!」と題して、在宅取組型の家庭教育学級を計画・実施した。

<6月 あったかい言葉がけ運動>

第1回絆チャレンジでは、「あったかい言葉がけ運動」に取組んだ。思いやりあふれるあったかいエピソードが寄せられ、そのいくつかを広報誌で紹介した。

「家族の絆チャレンジ2021!!」

- 絆チャレンジ① 「あったかい言葉がけ運動」 （6月）
 絆チャレンジ② 「話そう!語ろう!わが家の約束」 （7月）
 絆チャレンジ③ 「家族の絆 愛の詩づくり」 （8月）
 絆チャレンジ④ 「わが家の防災」 （9月）
 絆チャレンジ⑤ 「家族会議～校則の見直し～」 （12月）
 定期7日前 1ゲーム・15分・1週間

「気をつけてね」「早く帰ってきてね」「安全運転でね」。そのちょっとした言葉に思いやりを感じます。自分を待っていている家族がいるという安心感を与えてくれるあったかい言葉です。 《保護者より》

<12月 家族会議 ～校則の見直し～>

第5回絆チャレンジでは、「家族会議～校則の見直し～」に取組んだ。生徒が主体となって進めている校則の見直しについて、保護者も一社会人・人生の先輩として一緒に考える機会を作った。この取組を通して、多くの家庭で校則の意義や意味について考えたり、お互いの考えや思いを伝え合ったりすることができた。

《保護者の感想》

- ・子どもの疑問に対して、親の昔話を入れている話ができ、久しぶりに子どもと楽しく会話できた。校則の見直しを通して、子どもと親の価値観、考え方など普段は話さないようなことも話すことができ親子の距離が近づいた気がした。
- ・子どもは、新旧の校則の違いやLGBTのことなどよく理解していて、「それは〇〇だからだめなんだよ」と説明してくれ、知らない所で成長していることを実感した。こういう機会がなかったらこの成長を見ることはなかったので、今回の話し合いを嬉しく思った。
- ・「社会に出たとき、ルールを守らず個々が自由に生きていたらどうなるか？」子どもと一緒に話し合った。今、子どもにとっての社会は学校であり、校則の内容云々ではなく、守ることに意味があることを伝えた。

昨年度よりも活動に参加する家庭が増え、特に12月に行った「家族会議」では、家族のふれあいを深めるだけでなく、保護者も当事者となって学校課題について考えるよい機会となった。今後も、今回のように家族で議論するなど、親子ともに高め合っていくような取組を行っていききたい。



年間を通じた在宅取組型

昨年度に続き、今年度も在宅取組型の家庭教育に取り組みました。年間を通して「絆チャレンジ!!」を計画・実施し、少しでも家族のふれあいが増えるように工夫しました。

「あったかい言葉がけ運動」「話そう!語ろう!わが家の約束」「家族の絆愛の詩」等の活動も計画に入れ、全保護者を対象に実施することができました。



親子での議論

今年度、生徒が主体となって進めている校則の見直しについて、親子で一緒に考える取組を行いました。生徒・保護者にとって関心の高い校則について、それぞれの立場で意見交流することを通して、子どもの成長を感じたり、親の願いを伝えたりすることができました。

